

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 3 区分
 【発行日】令和 4 年 5 月 10 日(2022.5.10)

【公開番号】特開 2021-130739(P2021-130739A)
 【公開日】令和 3 年 9 月 9 日(2021.9.9)
 【年通号数】公開・登録公報 2021-042
 【出願番号】特願 2020-25271(P2020-25271)
 【国際特許分類】
 C 0 8 J 9/16(2006.01)
 【F I】
 C 0 8 J 9/16 C F G

10

【手続補正書】
 【提出日】令和 4 年 4 月 26 日(2022.4.26)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

X 線回折法により測定される結晶子サイズが 8 nm を超える、ポリアミド系樹脂発泡粒子。

【請求項 2】

J I S K 7 1 2 2 - 1 9 8 7 の熱流束示差走査熱量測定法に基づき、ポリアミド系樹脂発泡粒子を試験片とし、加熱速度 10 / 分にて 30 から融解ピーク終了時よりも 30 高い温度まで加熱する際に測定される D S C 曲線の全融解熱量が 40 ~ 140 J / g である、請求項 1 に記載のポリアミド系樹脂発泡粒子。

【請求項 3】

ポリアミド系樹脂発泡粒子の見掛け密度が 10 ~ 300 kg / m³ である、請求項 1 又は 2 に記載のポリアミド系樹脂発泡粒子。

30

【請求項 4】

下記の条件 1 にて得られる第 2 回加熱の D S C 曲線の融解ピークの頂点温度が 185 ~ 285 である、請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 つに記載のポリアミド系樹脂発泡粒子。

条件 1

J I S K 7 1 2 1 - 1 9 8 7 の熱流束示差走査熱量測定法に基づき、ポリアミド系樹脂発泡粒子を試験片とし、加熱速度 10 / 分にて 30 から融解ピーク終了時よりも 30 高い温度まで加熱し、その温度にて 10 分間保った後、冷却速度 10 / 分にて 30 まで冷却し、再度、加熱速度 10 / 分にて融解ピーク終了時よりも 30 高い温度まで加熱する際に測定される D S C 曲線を第 2 回加熱の D S C 曲線とする。

40

【請求項 5】

X 線回折法により測定されるポリアミド系樹脂発泡粒子の結晶子サイズが 9 nm 以上である、請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 つに記載のポリアミド系樹脂発泡粒子。

【請求項 6】

X 線回折法により測定されるポリアミド系樹脂発泡粒子の結晶子サイズが 10 nm 以上である、請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 つに記載のポリアミド系樹脂発泡粒子。

【請求項 7】

ポリアミド系樹脂発泡粒子の独立気泡率が 90 % を超える、請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 つに記載のポリアミド系樹脂発泡粒子。

50

【請求項 8】

ポリアミド系樹脂発泡粒子の平均気泡径が $20 \sim 200 \mu\text{m}$ である、請求項 1 ～ 7 のいずれか 1 つに記載のポリアミド系樹脂発泡粒子。

【請求項 9】

ポリアミド系樹脂発泡粒子の表層膜厚が $5 \sim 50 \mu\text{m}$ である、請求項 1 ～ 8 のいずれか 1 つに記載のポリアミド系樹脂発泡粒子。

10

20

30

40

50